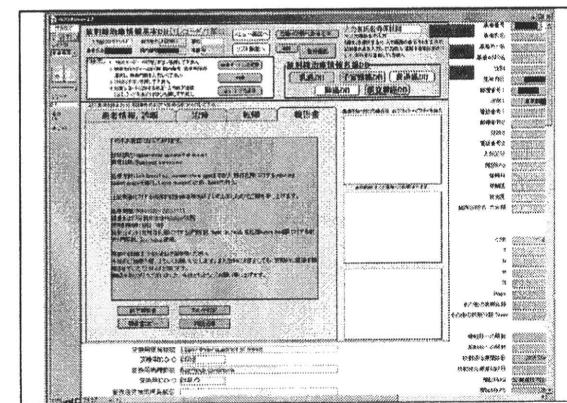
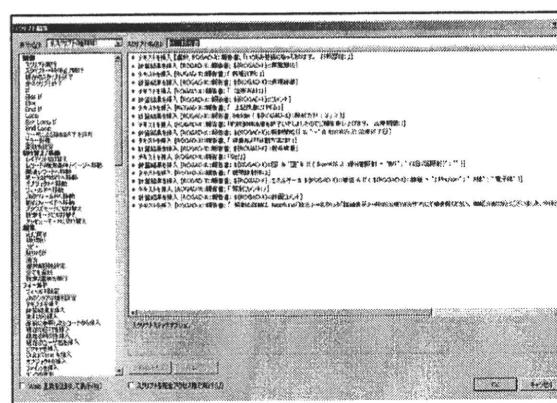
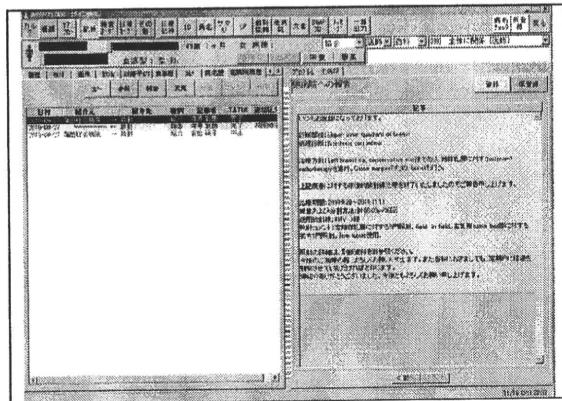


## 方法2

- 診療科DBを用いて、カルテに転記する記載を自動作成
  - 初回依頼科への返信
  - 初回照射時、カルテ記載
  - 終了報告書
    - ・院内用
    - ・院外用





**方法2**

自動作成

・ 診療科DE

- 初回依
- 初回照
- 終了報

診療報告書

19

20

This screenshot shows a 'Report Generation' screen titled '自動作成'. It lists three report types: Initial Request, Initial Response, and Final Report. Below this, a 'Treatment Report' section is visible, containing Japanese text and tables. The page numbers 19 and 20 are at the bottom.

**結果**

- ・ RISと診療科DBが同一端末上で作動
  - RISで書き出したファイルのインポートが容易に可能
  - コピーペーストも簡単に行える
- ・ 2重入力の手間はかなり軽減できた
- ・ RISから診療科DBへのデータ転送がやや煩雑
  - 検索の画面に切り替えて、ID検索、データの書き出し、診療科DBへのインポートまで、1ステップずつ手作業が必要
- ・ RIS上では、誤登録の訂正が困難
  - 診療科DB上では、訂正可能

20

21

This screenshot shows a detailed view of a medical record entry screen. It features various input fields, dropdown menus, and checkboxes. Three arrows point to specific fields: one to a date input field, another to a dropdown menu, and a third to a checkbox labeled '既存登録確認' (Existing Record Confirmation).

**今後の課題**

- ・ 現在は外来診察室の端末のみで作動
  - 放射線治療医が増える予定があり、ネットワーク化による複数端末上の作動が必要
- ・ 診療科DB自体、開発途上であり、さらに使いやすいものに改良必要
- ・ これまでに蓄積されているデータのインポートは？
  - RISのデータ
    - 以前の診療科DBのデータ
  - ROGADが更新された場合の対応は？
  - RISメーカーと項目の統一化に関する協議を
    - RISメーカーも統一規格を望んでいる

22

**結語**

- ・ 放射線治療RISと診療科DBの連携を構築した
- ・ まだ開発途上であるが、診療科DBへの二重登録はかなりの部分を避けられ、省力化が可能で、有用と思われた
- ・ 実際の運用にあたっては、まだ様々な問題点あり、学会やベンダーを含めた検討が必要である

23

# 各論 DB-II

厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業  
「がんの診療科DBとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用」  
平成22年度第1回全体班会議

## 子宮頸癌

### 子宮頸癌全国登録現状・最近のトピックス

国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科  
笠松高弘

1)日本産科婦人科学会  
・第49回治療年報 2010年12月  
2001年に治療した子宮頸癌・体癌の5年治療成績  
・2008年度患者年報 2010年3月  
2008年に治療した子宮頸癌・体癌・卵巣癌 登録

2)FIGO staging 改訂  
・2009年  
子宮頸癌 0期 削除  
2a期 腫瘍径 ≤4cm 2a1期  
>4cm 2a2期

3)FIGO annual report  
・vol.26

1)日本産科婦人科学会 ・2008年度患者年報 2010年3月

2008年度子宮頸癌患者年報  
(2008年1月1日～12月31日 281例)

その1 1～B期患者数  
その2 1～B期組織分類  
その3 0期患者数及び治療内容  
症 案 1. 治療患者施行割合  
症 案 2. 0期、Ia1期、Ia2期、Ia期並分類不明治療内容  
症 案 3. I～IV期治療方法  
症 案 4. I～IV期進行期別年齢分布

1)日本産科婦人科学会 ・2008年度患者年報 2010年3月

2008年度 総括1 子宮頸癌治療患者進行期分布

進行期	例数	%	割分類	例数	%
0	364	21.4	Ia1	711	6.4
1	293	26.7	Ia2	79	0.5
			Ia3	93	0.8
			Ia3+Ib1	100	0.9
			Ib1	100	0.9
			Ib2	449	4.1
			Ib2不明	83	0.6
			ii不詳	16	0.1
			Ex	231	2.0
			Exb	963	8.2
			Ex平野	2	0.0
			Exv	60	0.5
			Exn	664	5.9
			iii不詳	2	0.0
			IVa	152	1.1
			IVb	316	2.7
			iv不詳	6	0.1
合計	1863	-	合計	1163	10.0

1)日本産科婦人科学会 ・2008年度患者年報 2010年3月

2008年度子宮頸癌患者年報  
(2008年1月1日～12月31日 281例)

その1 1～B期患者数  
その2 1～B期組織分類  
その3 0期患者数及び治療内容  
症 案 1. 治療患者施行割合  
症 案 2. 0期、Ia1期、Ia2期、Ia期並分類不明治療内容  
症 案 3. I～IV期治療方法  
症 案 4. I～IV期進行期別年齢分布

IIb期 主たる治療 手術430例 49% 放射線治療456例 51%

(2003年度) (468例 63%) (280例 37%)  
(1990年度) (499例 69%) (227例 31%)

子宮頸癌治療ガイドライン 日本婦人科腫瘍学会編  
2007年版

CQ : Ib-II期にはどのような手術がおこなわれるか？  
推奨：広汎子宮全摘術が行われる【グレードA】。

2011年版【案】

CQ : Ib1、IIa期(扁平上皮癌)に対して推奨される治療法は？  
推奨：①手術療法では術式として広汎子宮全摘術が推奨される【グレードB】。  
②根治的放射線治療も並列した治療法として推奨される【グレードB】。

CQ : Ib2、IIa2期(扁平上皮癌)に対して推奨される治療法は？  
推奨：広汎子宮全摘術(+補助療法)または同時化学放射線療法(CCRT)が推奨される【グレードB】。

CQ : IIb期(扁平上皮癌)に対して推奨される治療法は？  
推奨：手術療法としては、広汎子宮全摘術(+補助療法)または同時化学放射線療法(CCRT)が推奨される【グレードB】。

CQ : 膜がんに対してはどのような主治療が推奨されるか？  
推奨：I期やII期に対しては原則として手術が推奨される【グレードC】。

1)日本産科婦人科学会 第49回治療年報 2010年12月

1)日本産科婦人科学会 第49回治療年報 2010年12月

# 1)日本産科婦人科学会

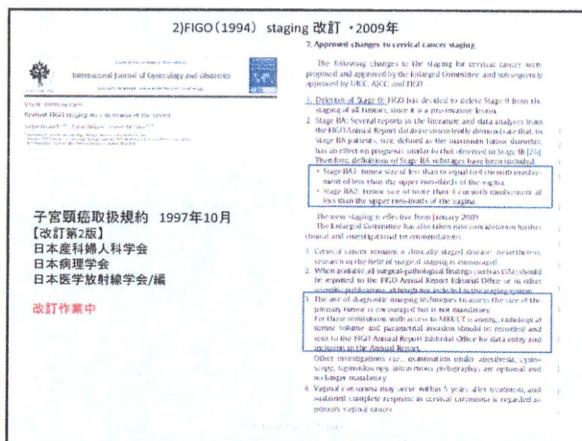
## ・第49回治療年報

### 2010年12月

# 1)日本産科婦人科学会 第49回治療年報 2010年12月

Table 7. 5-Year Survival First Therapy, Treatment Started in 2001

Stage	Therapy	Patients treated		5-year survival <sup>a</sup>
		N <sub>0</sub>	N <sub>1</sub>	
I	Surgery	434	83	91.3
	Radiation	73	7	87.3
	(Radiotherapy alone)	(57)	-	86.3
	Chemotherapy	33	3	87.3
II	Others	9	0	-
	Surgery	327	47.5	77.9
	Radiation	227	41.7	69.6
	(Radiotherapy alone)	(153)	-	65.7
III	Chemotherapy	69	72.4	63.9
	Others	1	0.1	0.0
	Surgery	19	6.1	80.2
	Radiation	310	73.4	49.7
IV	(Radiotherapy alone)	(202)	-	49.0
	Chemotherapy	36	22.1	34.4
	Others	2	0.4	90.0
	Surgery	31	5.6	27.3
	Radiation	158	22.1	40.6
	(Radiotherapy alone)	(99)	-	20.3
	Chemotherapy	47	21.3	20.3
	Others	3	1.2	55.6

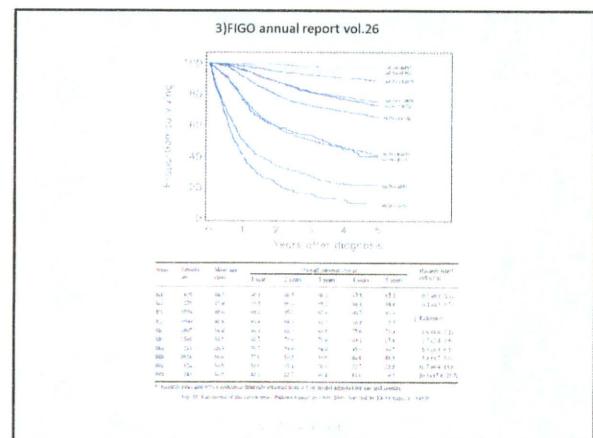
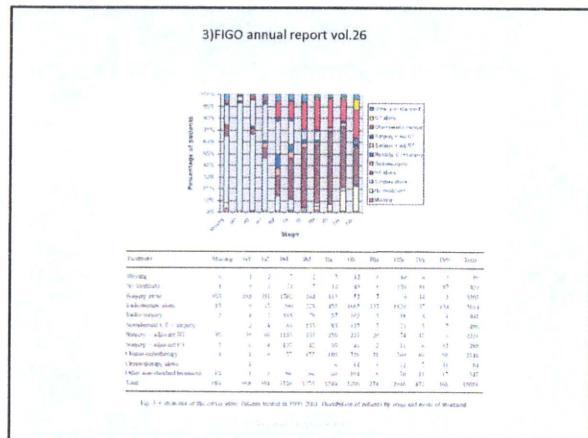


**3)FIGO annual report vol.26**

Table 1: Distribution of cervical cancer patients in FIGO stages according to treatment year.

Treatment Year	Ia <sub>1</sub>	Ia <sub>2</sub>	Ib <sub>1</sub>	Ib <sub>2</sub>	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IIIc	IV
1990	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1991	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1992	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1993	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1994	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1995	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1996	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1997	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1998	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1999	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2000	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2001	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2002	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2003	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2004	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2005	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2006	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2007	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2008	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2009	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2010	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2011	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

108箇所 11775人  
1999年-2001年治療患者



**JNCDB  
子宮頸癌DB**

JNCDB子宮頸癌小委員会  
戸板孝文、古平毅、篠田充功

平成22年度第1回全体班会議：手島班 2011/1/8

**JNCDB子宮頸癌DB  
改訂のポイント（基本方針）**

- 項目の「優先順位」
- 不要な項目削除、新規項目追加（含婦人科腫瘍医の観点）
- 院内がん登録との擦り合わせ
- 教育効果

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容  
病歴**

- 必須（松）  
妊娠・出産歴、PS（KPSはやめる）
- オプション  
合併症、喫煙、腹部大手術有無 → 梅へ  
HPVを追加（梅）

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容  
検査データ・輸血**

- 必須（松）  
なし
- オプション  
Hb値 → 竹  
輸血歴（治療前・中をまとめる） → 梅  
腫瘍マーカー → 梅（数値記入）

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容  
病理組織**

- 必須（松）  
病理組織型（取扱い規約第2版）入力。  
大分類は自動入力

病理組織型 (取扱い規約第2版)	<input type="radio"/> 両側上皮癌, NOH <input type="radio"/> 両側上皮癌, 角化癌 <input type="radio"/> 両側上皮癌, 分級不可 <input type="radio"/> 両側上皮癌, 分級不能 <input type="radio"/> 緩慢, NOE <input type="radio"/> 緩慢, 黏液癌 <input type="radio"/> 緩慢, 剥離癌 <input type="radio"/> 緩慢, 乳頭癌 <input type="radio"/> 緩慢, 肉芽腫 	<input type="radio"/> 頭頸部, 中分化 <input type="radio"/> 両側上皮癌, 分級不可 <input type="radio"/> 両側上皮癌, 分級不能 <input type="radio"/> マリガラス細胞癌 <input type="radio"/> 異様真核癌 <input type="radio"/> 小細胞癌 <input type="radio"/> 高分化癌 <input type="radio"/> 不詳 <input type="radio"/> その他
病理組織型（大分類）	: 両側上皮癌	

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容  
臨床病期**

- 必須（松）  
FIGO分類を用いる.....教育的效果  
\*問題：院内がん登録との整合性
- オプション  
細かい浸潤有無等  
→ 内容整理  
→ 梅

臨床病期(FIGO)	<input type="radio"/> 0期 <input type="radio"/> 1期 <input type="radio"/> 2期 <input type="radio"/> 3期 <input type="radio"/> 4期 	
走行部組織型	<input type="radio"/> 0期 <input type="radio"/> 1期 <input type="radio"/> 2期 <input type="radio"/> 3期 <input type="radio"/> 4期 	
早期組織型	<input type="radio"/> 0期 <input type="radio"/> 1期 <input type="radio"/> 2期 <input type="radio"/> 3期 <input type="radio"/> 4期 	
高分化	<input type="radio"/> 0期 <input type="radio"/> 1期 <input type="radio"/> 2期 <input type="radio"/> 3期 <input type="radio"/> 4期 	
低分化	<input type="radio"/> 0期 <input type="radio"/> 1期 <input type="radio"/> 2期 <input type="radio"/> 3期 <input type="radio"/> 4期 	

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**治療前検査**

● 必須 (松)

腫瘍径・  
リンパ節評価

腫瘍径評価法  
(複数選択可)  
骨盤内リンパ節  
骨盤外リンパ節  
四大リンパ節  
(10mm以上, minimum)  
CT MRI US PET その他  
CT MRI US PET その他  
なし あり 不明 なし あり 不明

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**治療前検査 (診断的検査)**

● オプション

→ 整理 治療前検査 診断的検査  
→ 梅

筋肉筋  骨盤MRI   
直腸鏡  試験開腹術   
PET  排泄性尿路造影   
CT

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**治療内容**

● 必須 (松)

治療目標、各治療の実施

治療目標  手術的  記録的  不明  
外部照射  ない  
腔内照射  ない  
根治的平衡  ない  
照射後追加手術  ない  
化学療法  ない  
その他の併用療法の実施  ない  
その他併用療法の詳細   
○その他併用療法の計画があるときのみ

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**手術**

● 必須 (松)

術式、手術日  
術後病理情報：断端、pT、pN

● オプション

病理所見 → 竹  
= 婦人科腫瘍医の利用を意識

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**外部照射**

● 必須 (松)

開始・終了日、  
線量 (全骨盤・中央遮蔽・PAN・boost)

● オプション

標的基準点、MLC使用等 → 竹  
計画方法、一日全門等 → 梅  
.....PCSの守備範囲か?  
1回線量 → 竹

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**  
**小線源治療**

● 必須 (松)  
なし

● オプション

他施設、治療計画 (A点、IGBT) → 竹  
直腸/膀胱線量、アプリケータ、鎮静、毎回計算等) → 梅

基本データベース

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**

## 化学療法

- 必須（松）
 

化学療法施行有無（手術・非手術）  
...婦人科腫瘍医の利用意識  
シーケンス（同時・前・後）
- オプション
 

標準レジメン → 竹  
薬剤、インターバル → 梅

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**

## 化学療法

化学療法（非手術例）手術併用 化学療法単独

化学療法の実施の有無  なし  あり  不詳

化学療法開始日(YYYY/MM/DD)

放射線治療前  放射線治療中  術前併用  術後放射線非併用  術後放射線同時併用

執行	Agent 1: CDDP
投与経路	Agent 2: VAC
	Agent 3: EMA-COPP
	Agent 4: MMG
	Agent 5: CBDDCA
	Agent 6: NDT
	Agent 7: CCPT-II
	Agent 8: その他

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**

## 経過

経過

最終追跡年月日(YYYY/MM/DD) [ ]

患者状態  健康生存  死亡  不明

死亡日(YYYY/MM/DD) [ ]

死亡原因  乳癌  治療関連死(放射線治療)  不明死  他疾患死(他由死)

死亡原因(詳述)  
(死亡理由が不明の場合は) [ ]

追跡時KPS、二次癌は削除 = ROGADにあり

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**

## 再発

case1 case2 case3

- 必須（松）
 

再発の有無
- オプション →
 

再発部位  
(複数選択可)  
 頭蓋骨  脊髄  骨盤リババズ  骨盤(部位不明)  その他  既大動脈リババズ  その他リンパ節  肺  その他の遠隔転移  不明  骨盤上リババズ  その他の遠隔転移  不明

再発年月日(YYYY/MM/DD) [ ]

細胞野内再発の有無 [ ]

二次治療の有無 [ ]

**JNCDB子宮頸癌DB改訂内容**

## 有害事象

- 必須
 

有害事象(急性期反応) 有害事象(晚期反応)

有害事象の有無	<input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> 不明
晩期有害事象	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり
記録年月日(YYYY/MM/DD)	[ ] グレード [ ]
* ありのときのみ記入	
泌尿器系	1.なし
消化器系	2.あり
その他	[ ]
1: 尿路梗阻/経過観察 2: 外科的治療を要す 3: 外科的治療を要す 4: 死亡	

**JNCDB子宮頸癌DB改訂**

## 今後の予定・課題

- Feasibility確認
  - 入力者別（研修医/指導医等）
  - 手術例、非手術例、化学療法併用例、etc
- Help画面の検討

## 肺癌登録合同委員会による 全国肺癌登録

日本肺癌学会  
日本呼吸器外科学会  
日本呼吸器学会

杏林大学医学部呼吸器外科  
吳屋朝幸

## 肺癌登録の組織

### ・肺癌登録合同委員会参加学会

日本肺癌学会  
日本呼吸器外科学会  
日本呼吸器学会

### ・事務局

大阪大学医学部呼吸器外科

・統計処理 東京理科大学 数学科

## 日本肺癌登録の方針

- ・**5年ごと**の日本全国の肺癌外科治療例に対する **retrospective study** (術後5年経過時点で集計する。)
- ・内科症例を含む全肺癌の **prospective study**  
2002年、2012年

## 肺癌登録合同委員会による症例登録

### 【目的】

TNM病期分類の妥当性の検討  
切除例について解析可能

### 【課題】

- ①学会ベースであり国民全体にデータを還元するには「解説」が必要  
外科医の全国的レベルの均質化には有効
- ②非切除例の解析について戦略確立が必要  
内科医の積極的関与が必須

UICC-TNM 分類(2009)

Proposals for new TNM Stage Groupings

## 肺癌登録の歴史

- ・1960年 肺癌研究会発足時より肺癌登録 肺癌研究会本部
- ・1967~83年; 全国肺がん患者登録調査 1967年(741例)~1983年(3301例)  
(第1~7報)日本TNM分類委員会肺がん委員会(石川七郎、吉村克俊)…10344例
- ・1994年; 呼吸器外科学会1989年症例の集計(白日高歩、他)…3643例  
日本呼吸器外科学会学術委員会(日本呼吸器外科学会誌、Vol 10, No6, 1996)
- ・2001年; 肺癌学会・呼吸器外科学会合同調査  
**1994年**切除症例の集計調査(肺癌登録合同委員会)…7408例
- ・**2002年**; 肺癌登録合同委員会による内科症例を含む全肺癌症例のprospective登録…11670例
- ・2006年; 肺癌登録合同委員会  
**1999年**切除症例の集計調査…13344例
- ・2009年; 2002年prospective 登録例の集計…18552(14695)
- ・2010年; 肺癌登録合同委員会 **2004年**外科切除例の登録
- ・**2012年**; 肺癌登録合同委員会 全肺癌症例のprospective登録

## 2002年prospective 登録集計① 外科・内科・放射線科症例を含む18552(14695)例

- ・男女比は2:1、
- ・平均年齢; 手術あり群が66.4歳、手術なし群が68.2歳
- ・PSIは手術あり群では大半が1~2であるが、手術なし群では3以上が30%
- ・臨床病期別では、I/II期が手術あり群では80%、手術なし群では10%
- ・組織型は腺がんが最も多く半数以上を占め、続いて扁平上皮がん、小細胞がん
- ・小細胞がんの比率が手術あり群では2%であるのに対し、手術なし群では19%

## 2002年prospective 登録集計②

外科・内科・放射線科症例を含む18552(14695)例

- 治療については、手術あり群の補助療法(術前・術後化学療法、術前・術後放射線療法)が35%
- 手術なし群では緩和治療が20%に行われていた。
- 予後  
1年生存率が73%、2年生存率が59%、3年生存率が51%、4年生存率は47%、5年生存率では44%であった。  
性別では女性の予後のほうが男性より良好
- 組織型別では腺がんが最も良く、次に扁平上皮がんである、全体として非小細胞がんのほうが小細胞がんより良好
- 臨床病期別5年生存率  
IA期が79%、IB期が56%、IIA期が47%、IIB期が42%、IIIA期が29%、IIIB期が16%、IV期が6%

## 2002年prospective 登録集計③

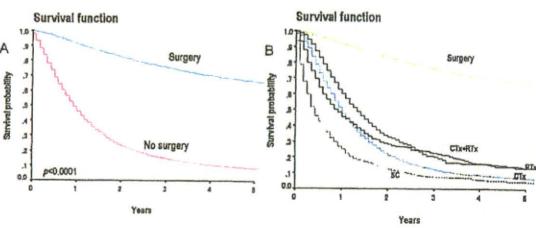
外科・内科・放射線科症例を含む18552(14695)例

- 臨床病期別5年生存率  
IA期が79%、IB期が56%、IIA期が47%、IIB期が42%、IIIA期が29%、IIIB期が16%、IV期が6%
- 多変量解析の結果、非小細胞肺がんでは臨床病期、性別、組織型、治療法、PSが生存率に対し独立した因子
- 小細胞肺がんでは、IA期とIB期、IA期とIIA期、および手術と化学療法+放射線療法との間に有意差が認められなかった。

## Treatment specific 5-year survival rates

	Surgery	treatment			
		No surgery	CTx	RTx	CTx+RTx
N	8,454	2,575	684	1,300	1,162
%	57.4	17.6	4.7	8.9	7.9
5-Year Survival Rate (%)	66.0	6.5	13.3	13.3	4.3
p-value*	0.0000	0.3	0.0000	0.0000	

Fig. 6



## NCDについて

(一般社団法人National Clinical Database)

- 外科専門制度と連携したデータベース事業について
- 現在専門医制度は「**専門不足が問題になっている一方で、外科医の真正面倒と質にいいでも問題**」われています。このような状況の中で患者に最高の医療を提供していくために、外科専門医のあり方を根拠に基づいて検討し、社会に広めることを必要です。また真正な医療提供者としての専門医の資格を維持する事が不可欠であるとされています。専門医が開業してしまった外科医が他の専門医とともに、専門医会員登録をする事で専門医会員登録をする事が可能となりました。専門医会員登録をする事で専門医会員登録のデータベース事業を開始することにいたしました。
- 本データベース事業は、外科開業専門医登録会員の下に設立された「手術会員データベースワーキンググループ」が準備を進めてきました。日本外科学会の専門医登録制度のみならず、山崎賞外科学専門医、筑波賞外科学専門医、小野外科学専門医、内分葉・甲状腺外科学専門医、乳癌専門医、肝臓専門医、門脳等の各サブスペシャリスト学会の専門医登録制度が協働して行うこと、また本事業を目的とした、独立した「一般社団法人 National Clinical Database(NCD)」を設立し、管理運営を行うことがすでに決定しています。
- この事業が始まりますと、**今後が料率は症例につき一員の手術(手術登録のみで構成の専門医制度への登録を行ふことが可能になります**。一方で今後の各専門医登録において使用される手術実績は、本データベース事業に登録された症例のみが対象となる見込みです。また登録した症例データを活用し、各領域における臨床研究も実施していくことも可能としました。外科症例の登録は、2011年1月1日(手術日)の登録から開始される予定にしています。全ての手術手術に必須となる共通登録項目は10項目程度の基準なものをお定めしています。この事業の具体的な詳細部分については現在検討中ですが、現時点ではほぼ確定していることをお伝えするとともに、今後の進捗状況については次回ホームページで開示させていただきますので、ご協力をお願いいたします。
- 社団法人日本外科学会、理事長、星見 達、外科学連盟専門医制度委員会 委員長、兼松 隆之
- 手術会員データベースWG 廉長 岩中 誠

## システム構築

1症例ごとに、A.統計的調査、B.医療評価調査、C.臨床研究までの入力が可能となるように、システムを作成する。

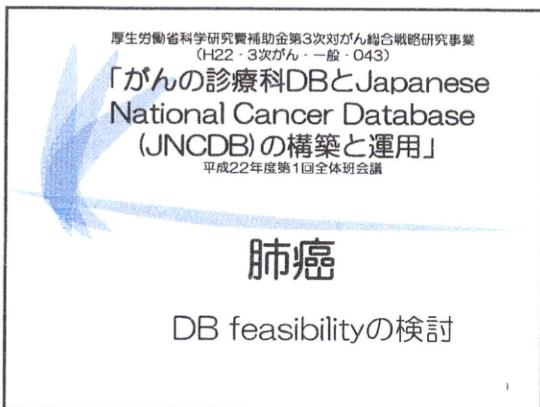
A.統計的調査：手術時に登録可能な数の項目により構成される(10項目)。利用者数は数万人。

B.医療評価調査：各領域の医療水準を評価する術前・術中・術後の項目より構成される。(心臓外科領域は200項目、消化器外科領域は60項目前後となる予定)。利用者数は1万人前後。システム数は外科サブスペシャリスト、領域の専門医資格の数と同程度となる見込み。

C.臨床研究：各種リサーチエクスチョンを明らかにするための項目をプロジェクト別に追加する。追加項目数は数項目。既存項目を複数の施設が入力義務を負う訳ではなく、各領域の合意形成のもと参加施設や、入力対象症例の基準の設定が必要となる(同時に倫理審査も必要)。利用者数はプロジェクトの性質により異なる。

備考

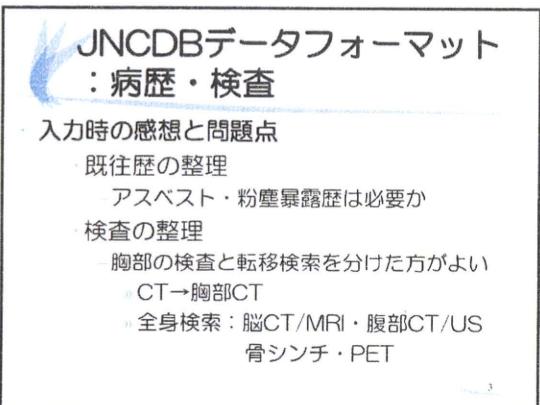
- 2011年1月1日(手術日)の症例から全国的な登録を開始する予定。2010年はシステム検証(少數施設によるパイロットプロジェクトの実施)、同事業の関係者への周知、各団体との連携体制の構築を行う。
- NCDは施設や術者の特定につながるような成果物及び、情報の公開は原則として行わない。
- 集積されたデータの学術的利用は、上記2の原則のもとで各専門領域が主体となってを行い、NCDはその支援を行なう。データの取り扱い、成果物の種別、成果物の活用方法の決定については、各領域のデータ利用検討部門の権能とする。



**JNCDB案の項目についての検討**

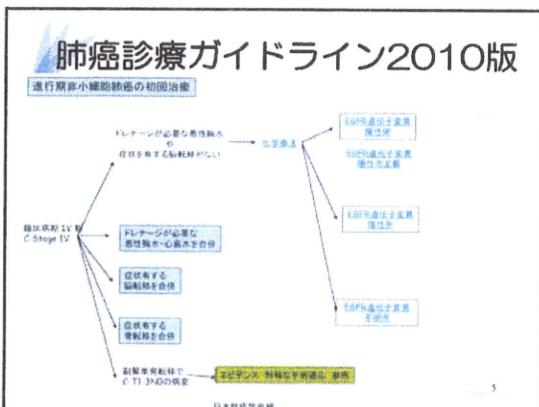
**目的**  
JNCDBフォーマットのfeasibilityを検討

**方法**  
呼吸器関係スタッフ・レジデントに担当症例を用いた入力を依頼  
入力時の問題点について聴取  
JNCDB運用についての意見を聴取



**JNCDBデータフォーマット：病歴・検査**

- 入力時の感想と問題点
  - TNMは入力しやすい！
  - T1&T2でabがわかりにくい
  - MO・M1a/bがない！
  - 遺伝子検査を病理に継ぎ入れる
  - EGFR遺伝子変異の有無は必須では新たな遺伝子検査に柔軟に対応できるといい



## JNCDBデータフォーマット ：治療過程

### 化学療法（薬物療法でしょうか）

分子標的治療薬を明確化したほうがよい

術後化学療法を明確化したほうがよい

手術と化学療法の併用時期の項目をつくる

追加が必要な薬剤

代謝拮抗薬：アリムタ(pemetrexed: PEM)

抗腫瘍性抗生物質：カルセド(Amrubicin: AMR)

分子標的治療薬：タルセバ(erlotinib) 経口

アバズチン(bevacizumab) 注

## JNCDBデータフォーマット ：経過・予後

### 経過

最終経過観察日に関し、転院（含む在宅移行）  
があるとい

### 再発

肺癌は多発癌がかなりの確率であるため、再発・  
再燃のみでなく2nd primaryを記録したい

### 有害反応

生じた順序より重篤度やその後の治療に影響を及  
ぼす事が重要ではないか

遅発性の定義は？

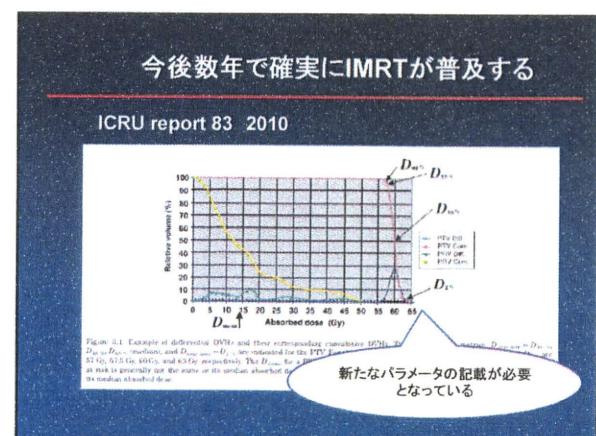
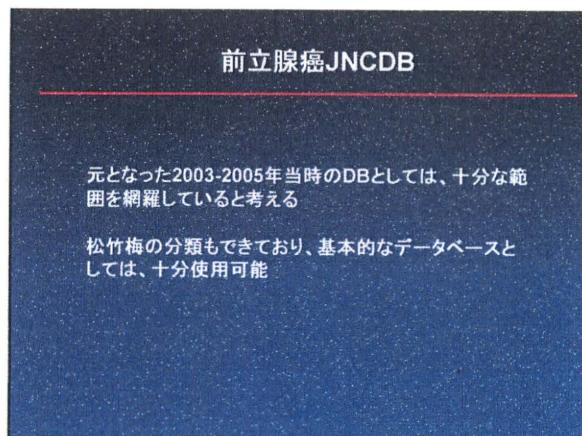
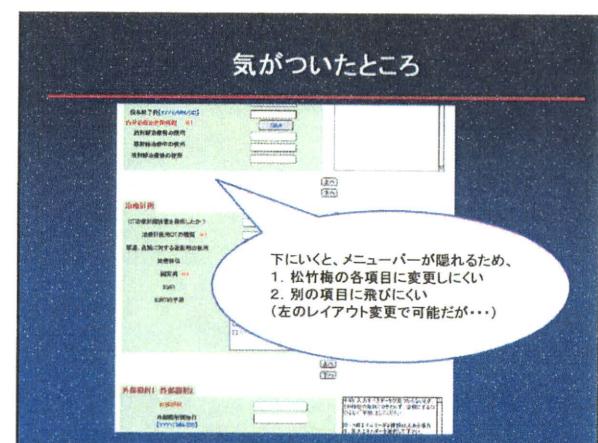
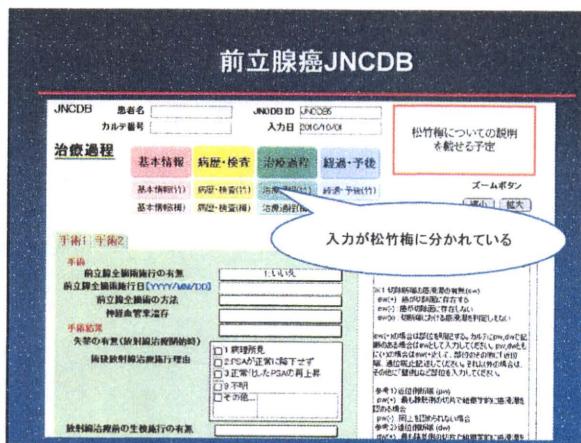
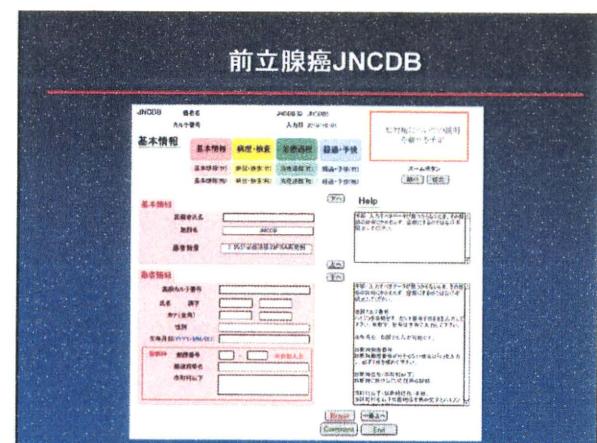
## JNCDB feasibility ：まとめ

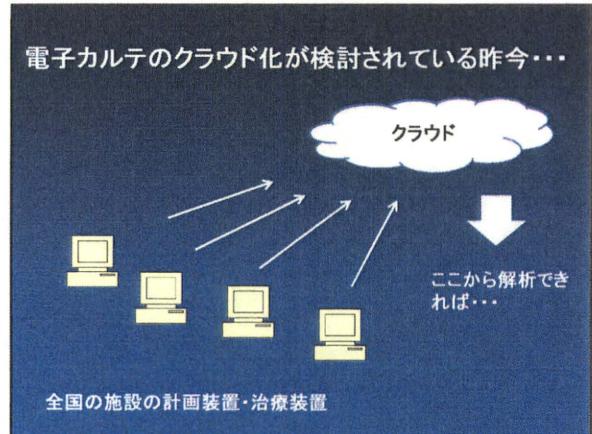
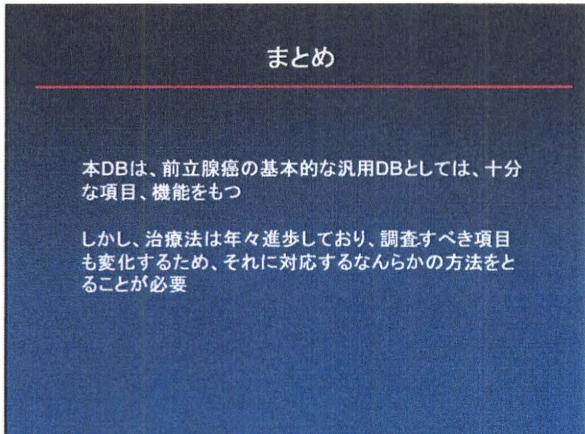
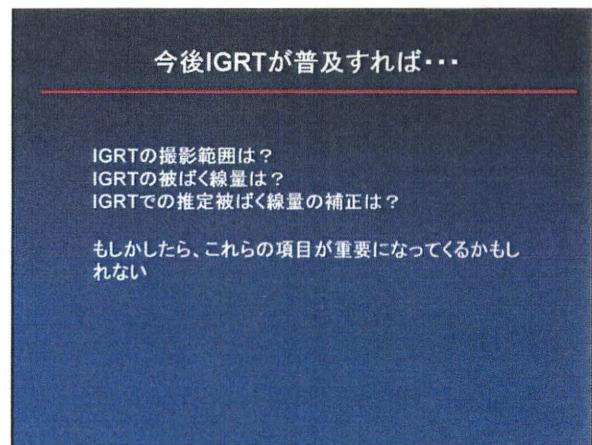
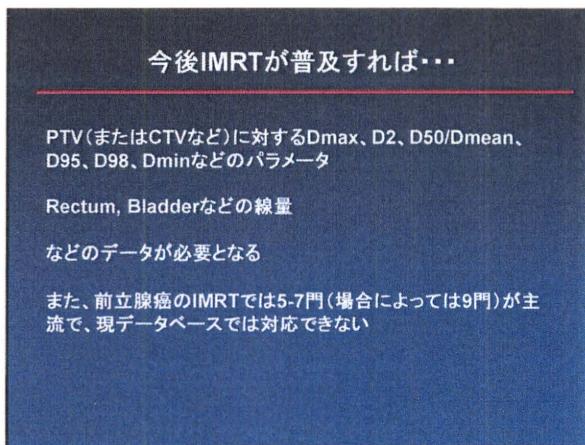
薬物や遺伝子検査など変化の推測可能  
な項目の扱いについて検討が必要

TNMが改訂された直後はDB普及には  
よいタイミングだが、ガイドラインや  
取扱規約の改訂に対応が必要

9

# 各論 DB-III





## 小線源治療でのDB update

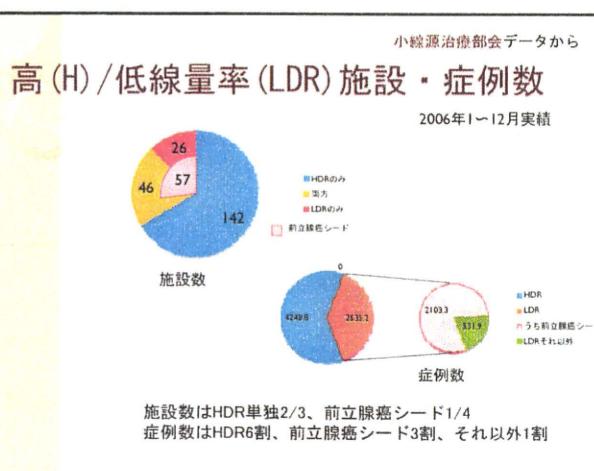
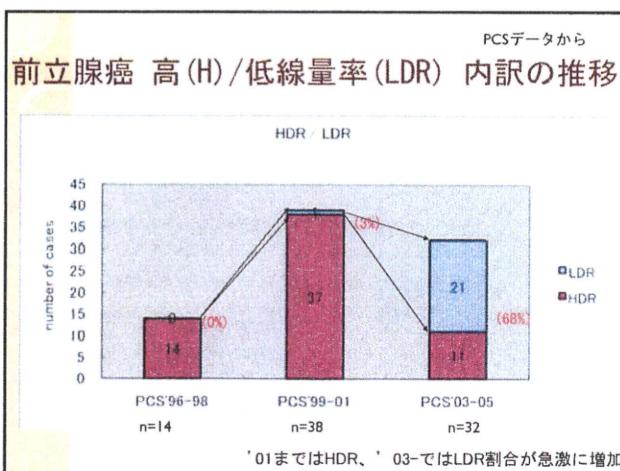
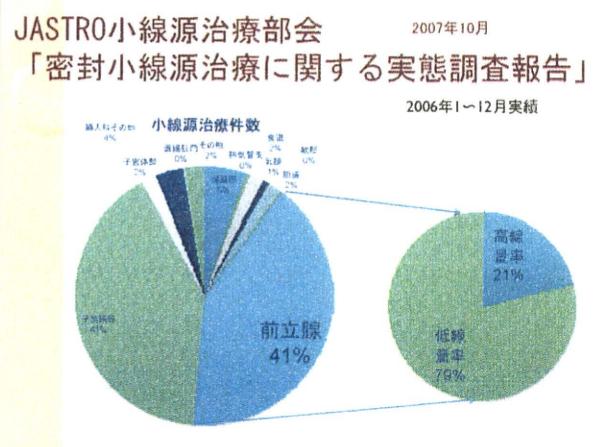
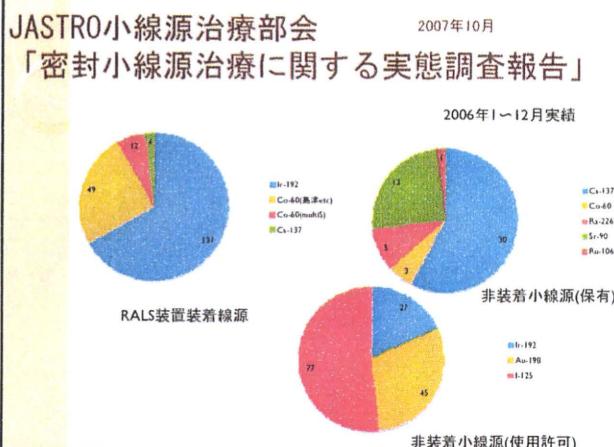
小泉 雅彦

Masahiko Koizumi

大阪大学医学部附属病院オンコロジーセンター医学物理室  
Medical Physics Div., Oncology C., Osaka Univ. Hsp.

## 新時代の小線源治療に対応したDBへ

- 適応の推移
  - 部位、線量率
  - 特に前立腺癌シード(LDR)
- IGBTへの流れ
  - 高精度化の歩み
  - 同室設置CT
  - DVH項目の拡大



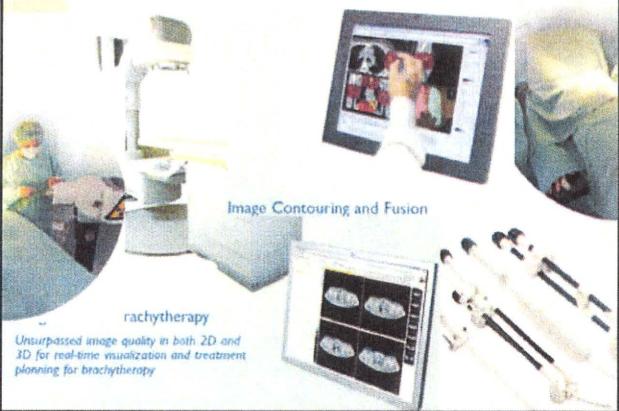
施設数はHDR単独2/3、前立腺癌シード1/4  
症例数はHDR6割、前立腺癌シード3割、それ以外1割

## 新しい時代のIGBTへ

- 腔内：CT-base&最適化→Manchester法から脱却?
    - 筑波大 桜井英幸、琉球大 戸板孝文ら
  - Geometrical parameterの正確な取得
  - Target V, OARの描出←軟部陰影の取得
    - Non-metal applicatorの必要
  - 不均一補正←CT-EDの取得
  - 外照射併用時の線量合算
  - MRI/PETなどquality imageとのfusion
  - Real-Time image(生理変動への対応)

## IGBTのwork flow

Nucletron HPから



## IGBT - 同室設置CTのメリット

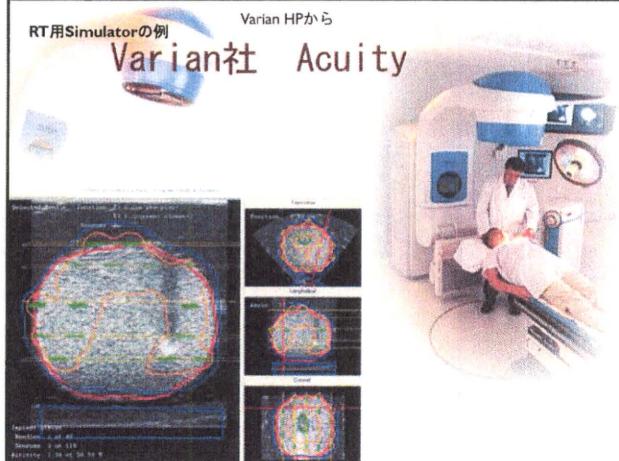
- ・ 移動による手間・時間の軽減
  - ・ 患者負担の軽減
  - ・ 同一体位での画像取得
    - 計画画像=治療体位
  - ・ 移動時の外力による位置誤差の軽減
    - 体内でのアプリケータ移動
    - 時間的経過による体内環境の変化
    - ほぼReal time image
  - ・ 正確、real-timeな位置・体積情報取得  
→高精度DVH評価

## IGBT用同室CTの選択肢

	1. 通常CT	2. C-arm CBCT
① 通常CT		
○ 固定型	大きさ/必要スペース	大
○ 自走型	重量	小
2. C-armによる cone beam CT	画質	大
○ 床置き固定型	位置座標	良
○ 天井吊り下げ型	CT-ED	悪
	>>	精確
	価格	担保必要
		>
		大
		小

- 部屋の大きさと経費予算が最大の選択要件

Varian HPから



JNCDB-PK 小線源治療項目1

機械内照射	[なし]、[あり]、[9 不明]、[その他 (テキスト入力)]	松
入院日		松
退院日		松
持続		松
被量率		松
投与・処理量(Gy)		松
麻酔方法	[1 気管挿入]、[2 全身麻酔]、[3 神経麻酔]、[4 腹膜外麻酔]、[5 頭頸部のみ]、[6 産科のみ]	松
	[7 静注麻酔のみ]、[8 不明]	
アーチローダー	[1 Suspension]、[2 Transformation]、[3-6 不明]、[その他 (テキスト入力)]	削除
テンションリフター使用	[なし]、[あり]、[9 不明]	削除
骨盤マニピュレーション	[なし]、[あり]、[9 不明]	松
-TRUS使用	[なし]、[あり]、[9 不明]	削除
前筋膜切開用の導管	[1 USG]、[2 CT]、[3 MRI]、[4 MRCP]、[5 CT/MRI]、[その他 (テキスト入力)]	松
直角カギドコルの導管	[1 USG]、[2 CT]、[3 MRI]、[4 MRCP]、[その他 (テキスト入力)]	松
PVP	[1 P]、[2 P + マージン]、[3 P + SV]、[4 P + SV + マージン]	松
術前筋膜切開種類指定(m)	デキストラスクリュ	松
マージン 直角側(mm)	デキストラスクリュ	松
マージン 直角側外( mm)	デキストラスクリュ	松
針刺入本数(本)	デキストラスクリュ	松
縫合配置法	[1 錆釘配置法]、[2 線維配置変法]、[3 均一配置法]、[4 均一配置変法]、[その他 (テキスト入力)]	松

## JNCDB-PK 小線源治療項目2

・高線量率 1回線量(cGy)	テキスト入力	松
・高線量率 分割照射の回数	テキスト入力	松
・高線量率 照射時間	[1 6時間未満], [2 6~24時間], [3 24時間~7日]	松
・高線量率 組織内照射開始日	形式[YYYY/MM/DD]	松
・高線量率 組織内照射終了日	形式[YYYY/MM/DD]	松
・高線量率 治療日数	テキスト入力	松
・低線量率 線源強度(MBq)	テキスト入力	松
・低線量率 線源個数(個)	テキスト入力	松
・低線量率 総放射能(MBq)	テキスト入力	松
・低線量率 刺入日	形式[YYYY/MM/DD]	松
・低線量率 治療計画時期	[1 術前プラン], [2 術直前プラン], [3 術中プラン]	松
・低線量率 移動線源有無	[1 なし], [2 あり], [3 不明]	松
・低線量率 移動線源個数	テキスト入力	松
・低線量率 移動線源部位	[1 肺], [2 腹部], [3 骨盤], [その他 (テキスト入力)]	松
・術後計画 計画年月日	形式[YYYY/MM/DD]	松
・術後計画 画像	[1 CT], [2 CT], [3 Xp], [4 MRI], [5 CT+MRI], [その他 (テキスト入力)]	松

## DVH項目:PCS03~5改訂

- ・単独例が増え戴Dosimetryが重要化
  - ・J-POPSと同一データ項目採用
  - ・線量評価 項目 推奨
- 1) 前立腺線量 PTV=Prostateに144(145) Gy  
V100 (%) .. ≥ 90%  
V150 (%) .. ≥ 30-60%  
D90 (Gy) .. ≥ 140 Gy
- 2) 尿道線量 : D5 (6y), D90 (Gy), U200 (ml)
- 3) 直腸線量 : R100 (ml), R150 (ml)
- ' 03-05 PCS data formatに採用した。  
※data記載率は3~8割程度に留まる。  
→Postplanの未解析?  
→ROGAD=JNCDB用にも汎用化して採用

A	B
165	...Depot
166	Paracervical
167	Dose-rate
168	PTV=... (region)
169	...prescribed
170	...radiotherapy
171	Recum reference,dose
172	Isodose,reference,dose
173	Converge
174	Open,close,dose
175	V100,volume
176	V150,volume
177	...radiotherapy,area
178	...radiotherapy,fr
179	...radiotherapy,fr
180	...radiotherapy,fr
181	...radiotherapy,fr
182	...radiotherapy,fr
183	...radiotherapy,fr
184	Reference,point
185	Solidation
186	...radiotherapy,fr
187	Template,radiotherapy
188	Approach
189	...radiotherapy,fr
190	...radiotherapy,fr
191	...radiotherapy,fr
192	...radiotherapy,fr
193	External,radiotherapy,fr
194	...radiotherapy,fr
195	...radiotherapy,fr
196	...radiotherapy,fr
197	...radiotherapy,fr
198	...radiotherapy,fr
199	...radiotherapy,fr
200	...radiotherapy,fr

## JNCDBに採用したDVH項目

・DVH 測定部位 (1~4)	[1 PTV], [2 直腸], [3 尿道], [その他 (テキスト入力)]	松
・DVH V volume (1~3) (1~4)	[1 V100], [2 V150], [3 V200], [その他 (テキスト入力)]	松
・DVH V value (1~3) (1~4)	テキスト入力	松
・DVH V unit (1~3) (1~4)	[1 s], [2 m], [その他 (テキスト入力)]	松
・DVH D dose (1~3) (1~4)	[1 D5], [2 D90], [3 D95], [その他 (テキスト入力)]	松
・DVH D value (1~3) (1~4)	テキスト入力	松
・DVH D unit (1~3) (1~4)	[1 eGy], [2 Gy], [その他 (テキスト入力)]	松

- ・評価部位選択: PTV, R, U, 他
- ・体積: V100, V150, or V200 (% , ml, 他)
- ・線量: D5, D90, or D95 (cGy, Gy, 他)

## 小線源DBの方向-まとめ

- ・子宮頸癌腔内照射HDRが依然、主適応であり、前立腺癌組織内照射=シードLDR適応拡大にも対応すること
- ・IGBT導入=高精度化への対応
  - 特に同室CTによる項目の新設
  - DVH項目の充実

# 開発企業の動向